



# 神奈中情報通信



(株)神奈中情報システム TEL:0463-22-8804 FAX:0463-22-8815

■■この「神奈中情報通信」は、私たちと何かのご縁があったかたにのみ、差し上げている通信誌です。■■

## ◆「千ルソクの夏」「鉄道員(ぽっぽや)」を観て思い出し…◆

こんにちは！お世話になっております。神奈中情報システムの米山です。今回は私が担当です。よろしくお願いいたします。



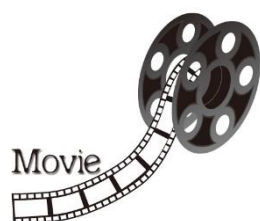
さて、先日、「国立映画アーカイブ」という施設に映画を観に行く機会がありました。こちらは日本で唯一の国立映画専門機関です。

東京駅から徒歩10分、銀座線京橋駅からは徒歩1分の場所にあり、7階建ての立派な建物の中は、昔の映画のフィルムが保存されていたり、図書室のフロアがあったり、それから、映画館のような上映館もあります。映画に関する様々なイベントが行われていまして、今回、「逝ける映画人を偲んで 2019-2020」という上映企画があり、そちらにご招待いただいたことをきっかけに、初めて行ってきました。

ちなみに、この上映企画は、日本映画の輝かしい歴史を築き、惜しまれながら逝去された映画人の方々を、それぞれの代表的作品を上映することで追悼するというもので、2年振りの開催だったそうです。2019年1月1日から2020年12月31日の間に逝去された方々へのオマージュとして、57作品を上映し、70名以上の映画人の業績を回顧・顕彰するというものでした。

そして、実はこちらの上映企画の作品として、義理の兄、故・佐々部清監督の「千ルソクの夏」と、それから、佐々部がチーフ助監督として関わった「鉄道員(ぽっぽや)」(故・降旗康男監督)を取り上げていただいております。

今回、佐々部と昔からタッグを組んでいた臼井さんというプロデューサーの方からお声掛けいただき、佐々部の奥さん、義理のお姉さんと姪っ子、私たち家族で行ってきました。



私たちが行ったときは、緊急事態宣言下ということもあり、感染対策が本当に徹底されていまして。完全予約制で定員310名のところ50%の155名の入場制限。入場時には（2枚目へ→）

(続き→) 入場者自らチケットの半券を切り取り、カウンターに置き、検温、消毒後の入場。もちろん、マスク着用。席は左右の両隣がいないだけでなく、前後もいませんでした。どの作品も期間中に2回上映され、私は計3回行ったのですが、1回目は招待枠で、2回目、3回目はチケットぴあで予約して行きました。

まず、「チルソクの夏」を観ました。こちらは、佐々部の実質の監督デビュー作品で出身地の山口県下関市を舞台にしています。当時、高校生だった上野樹里さんがオーディションを受けて出演しており、監督が当時から「樹里は、売れる女優になると感じていた」と聞かされたことを思い出しました。

次に「鉄道員」です。こちらは、高倉健さん主演、浅田次郎さん原作の作品。佐々部はチーフ助監督として関わり、この作品は思い入れが強いと聞いていました。

冬の雪のシーンが多い作品でロケが北海道。駅長役の健さんが勤務中の駅のホームに倒れて亡くなるシーン、実際のロケの日も雪が降っていて、数秒のシーンではあるけれど、健さんほどの大物役者に雪の降る中やっていただくのはどうなのかとなり、背格好が同じくらいだった佐々部が駅長役の服を着て、リハーサルから本番までを代役したと聞きました。健さんは代役を使うことは自分のポリシーではなく、しかし、周りの人の配慮でそうなったそうです。

この話には続きがあり、撮影終了後、健さんから佐々部に「KEN」と刻印されたオリジナルの腕時計が御礼と感謝の気持ちとして贈られました。その時計を見せながら、嬉しそうにそのときのことを語っていた佐々部の顔を思い出しました。

また同時に、高倉健さんという俳優は、監督から一番下のスタッフから誰に対しても平等に、公平に対応する素晴らしい方だとも聞いていまして、佐々部もまた、健さんの振る舞いを常に意識して監督として取り組んでいるとも聞き、「鉄道員」を観ながらそんなことまで思い出し、ついジーンと来てしまいました。



■この通信がご不要の方は1枚目をそのままFAXしてくださいませようよろしくお願いいたします■

## 【発行元】

バス事業者、旅客・貨物輸送事業者が求めるシステムの構築から運用までをサポート！

株式会社神奈中情報システム

〒254-0034 神奈川県平塚市宝町3番1号

平塚 MNビル11階

TEL: 0463-22-8804 FAX: 0463-22-8815

発行責任者: 神奈中情報システム

株式会社  
神奈中情報システム



大森



米山